

科目名称	臨床整復技術実習
授業コード	AF260
英語名称	Laboratory study in Basic Reposition-Technique 2
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	市ヶ谷 武生
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	柔道整復師は骨折や脱臼に対して、適切な評価と整復および固定を施す必要がある。特に上肢の骨折や脱臼は発生頻度が高く、臨床においては適切な対応が求められる。この授業では主に前腕骨、手根骨、中手骨、指骨の骨折に対する評価法、整復法、固定法の基本的な事項を理解し、あわせて基本的な処置を施せる技能を習得することを目的としている。とりわけ、臨床で好発する上肢の骨折に対する評価法、整復法、固定法の基本を理解し、必要かつ適切な実技が行えるように実習をおこなう。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・柔道整復師として臨床実践を行ってきた教員が、発生頻度の高い前腕骨、中手骨、中手骨、手指骨の骨折の整復・固定・後療法について実技をおこなう。基礎から段階的に教授し、臨床応用まで実践的な実技実習をおこなう。
到達目標	1)前腕骨、手根骨、中手骨、指骨の各骨折について、基本的な評価法、整復法、固定法について理解する。 2)前腕骨、手根骨、中手骨、指骨の各骨折について、基本的な整復法、固定法を習得する。 3)骨折に対して適切な応急処置が出来るようになる。 4)カリキュラム・ポリシーに掲げる、課題と目標を自ら設定し、課題克服および目標達成に取り組む専門性と対応力を身に付けるよう、問題提起力と思考力を養う。
計画・内容	第1回：骨折の評価法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第2回：整復法の基礎 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第3回：固定法の基礎(1) 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第4回：固定法の基礎(2) 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。 第5回：橈骨上端部骨折～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。

計画・内容	<p>第6回：肘頭部骨折～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第7回：Monteggia骨折,Galeazzi骨折～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第8回：前腕骨幹部骨折～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第9回：橈骨下端部骨折(1)～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第10回：橈骨下端部骨折(2)～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第11回：手根骨骨折(1)～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第12回：中手骨折(1)～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第13回：中手骨折(2)～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第14回：手指骨折(1)～評価法・整復法・固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p> <p>第15回：特殊な整復法と固定法 予習：60～70分程度の予習を行うこと。 復習：60～70分程度の復習を行うこと。</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時に基礎的な整復法、固定法、後療法を学ぶ。 ・毎回、スライドや動画を提示して理解を促す。 ・適宜資料を配布する。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・実技実習では教員が各テーブルを巡回して適宜アドバイスを与える。必要に応じて教員がデモンストレーションを行い理解を促す。 ・適宜グループワークを課してディスカッションやプレゼンテーションを行う。 ・実習を効率的に行うため、遠隔授業で学ぶ基礎的事項を理解しておくこと。配布する資料を熟読し、必要に応じて専門図書や資料を紹介するので目を通しておくこと。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：これまでに配布した資料を読んでおくこと（60～70分程度）。 ・復習：本授業の配布資料をまとめ、実技の練習をしておくこと（60～70分程度）。
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>「包帯固定学」全国柔道整復学校協会監修・南江堂</p> <p>「柔道整復学（実技編）」全国柔道整復学校協会監修・南江堂</p>

成績評価方法と基準	・実技試験（100%）
課題等に対するフィードバック	・実習時は、教員が巡回して各学生に適宜、評価と助言をおこない実技能力の発展を支援する。 ・積極的に質問(対面、メール等)を受け付ける。
オフィスアワー	・Campus Squareを参照のこと。
留意事項	・臨床において重要な内容を含む実技である。真摯な態度で臨んでもらいたい。 ・不適切な態度な受講態度は一切認めないので注意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ・成績評価法：on-lineによる試験(100%)。